

8 六所神社



文暦元年(1234)に、始まったと伝えられている。
江戸期には下丸子村の鎮守であった。

9 蓮光院武家屋敷門



備前池田家の表門であったと伝えられる武家屋敷門(都指定文化財)。
昭和14年頃、蓮光院に移設された。

7 妙蓮塚三体地藏



新田義興と共に矢口瀧で命を落とした備前たち3名が祀られている。

6 櫻並木



昭和29年に地元町会の人たちが1本1本手で植えたもの。夏は緑の葉が生茂り、心も身体も癒される。

5 21世紀桜



平成16年、17年に植樹された桜の新名所。後ろはキャンパス。桜まつりが毎年3月末に行なわれる。

- WC・・・トイレ
- CVS・・・コンビニ
- ←富士山ビューポイント
- 丹・・・神社
- 卍・・・お寺
- (—)・・・たまちゃんバス停留所(ルート)
- ◎・・・オススメSPOT
- ・・・モデルコース

多摩川七福神パワースポット巡り【モデルコース】約1時間20分



※「新田神社」以外の神社仏閣では、御朱印色紙の販売、御朱印の押印は行なっていませんのでご注意ください。

4 多摩川の夕日



富士山を望む絶景ポイントでもある多摩川の土手。沈む夕日も美しきは格別。

主催：武蔵新田商店会／多摩川七福神実行委員会
協賛：矢口北町会、矢口中町会、矢口南町会、今泉自治会、古市町会

1 武蔵新田駅



新田神社へは改札を出て左方向へ歩いて3分!

2 たまちゃんバス 武蔵新田駅バス停



たまちゃんバスは、矢口・下丸子地域の循環バス。観光にも使えて以外に便利! (運賃150円)



開運

多摩川七福神パワースポット巡り

3 矢口の渡し碑



東八幡神社にある碑だが、多摩川の土手を降りると、大田区に設置した碑も建っている。



新田神社

矢口二丁目二十一〜二十三

一三五八年南北朝の武將で矢口の渡しで非業の死を遂げた新田義興を祀るために建立。「強運の神様」として信仰されてきた。御神木の樺(ケヤキ)は樹齢七百年、雷や戦火に遭い真つ二ポツと裂けるもいまも葉が生い茂り、パワースポットとして多くの人が訪れている。二〇〇八年には日本を代表するアートディレクター浅葉克己氏より「ONE神社」のオブジェが奉納され、恋愛成就のご利益があるとされている。時代と共に「商売繁盛」「五穀豊穡」を願う神として親しまれるようになった。



恵比須



七福神の中で唯一日本出身の神様。左手に鯛を抱え、右手に釣竿を持つ。満面の笑顔は「恵比寿顔」といわれる。古くは「漁業」や「水難除け」の神とされたが、時代と共に「商売繁盛」「五穀豊穡」を願う神として親しまれるようになった。

頓兵衛地蔵

下丸子一丁目一〜十九

正式名を地蔵菩薩立像という。正平十三年(一三五八)新田義興の謀殺に加担した船頭の頓兵衛が、その罪を悔い一体の地蔵を作った。それが俗称「頓兵衛地蔵」である。この話は浄瑠璃「神霊矢口渡(平賀源内作)」に登場する。また、義興の恨みで地蔵の顔は溶けてしまい別名「とろけ地蔵」とも言われている。だが実際は崩れやすい砂岩で出来ているためらしい。



布袋尊



中国唐の時代に実在した僧侶の化身。また、弥勒菩薩の化身ともいわれ、聖人として神格化された。大きな布の袋を携え、福々しい顔と太ったお腹という風貌から「幸福」の象徴とされ「開運」「良縁」「家庭円満」の神として慕われている。

矢口中稻荷神社

矢口一〜五

武蔵新田駅ホームに沿って鎮座している小さな神社。今から約二〇〇年前大凶作の折り、百姓であった金子作衛門が京都伏見の国から正一位稻荷大明神の御神体を矢口村田町に遷座した。村を挙げて念じたところ例年になく大豊作となったという。昭和十年耕地整理のため、今の場所に移築された。



福祿寿



豊かな白髭をたくわえ、長い頭をした中国の神様。寿老人と福祿寿は同一人物とも言われるが、日本では別人として七福神に加えられている。道教で理想とされる「福(幸福)」「祿(高給)」「寿(長命)」の三つの福徳を授けてくれる。

年7回、第一日曜日に
行なわれる...

多摩川七福神



◆多摩川七福神◆

矢口・下丸子地域は、一三五八年(正平十三年)、新田義興が多摩川の矢口渡で謀殺されたという伝説に関連する様々な逸話や史跡が残っている地域です。二〇一四年、この地域に『多摩川七福神』が設置され、新しい歴史が始まります。多摩川七福神は、この地で暮らす人々や、この地を訪れる人々の“心のよりどころ”として、未来への希望と生きる力を与えてくれる神様達です。この機会に「多摩川七福神パワースポット巡り！」で、ご自身やご家族の福運祈願を行ないながら、先人たちの思いや数々の歴史の証(地域資源)との出会いをお楽しみください。

〈御朱印色紙販売時間〉午前10時〜午後2時

●新田神社で“御朱印色紙”をお買い求めの上、多摩川七福神パワースポット巡りをお楽しみください。

必ずお読みください!

【御朱印色紙: 1,000円】

●新田神社にゴールしたら、備え付けのスタンプ(7ヶ所分)を押しましょう。

多摩川七福神 パワースポット巡り

氷川神社

矢口二丁目一〜二十七

新田神社からほど近いところに鎮座する氷川神社。御祭神は、嵐や疫病を司り災いから人々を守るとうされる素戔嗚尊(すさのおのみこと)。拝殿前には一対の狛犬、すぐ横には柵に囲まれた「三社稲荷」が行なわれる例大祭では、広い境内が大勢の人々で埋め尽くされるが、日常は静かな境内に、整備され遊具で遊びまわると子どもたちの声が響く。



大黒天



元をたどればインドのシバ神。大きな袋を背負い全国を修行して回る大国主命と重なり、「五穀豊穡」の神として広まった。烏帽子に袴、手には打出の小槌を持ち、米俵に乗った姿は「豊作」「商売繁盛」「出世」の神として人気が高い。

十奇神社

矢口二丁目一〜十七〜二十八

新田神社に大変縁の深い神社で、「じつきじんじや」ともいう。一三五八年多摩川の矢口渡で謀殺された新田義興の、十人の従者を祀ったのが十奇神社である。十人の名は世良田右馬助義周、井澤正左衛門、大嶋周防守義遠、進藤孫六左衛門、由良兵庫助、由良新左衛門、境臺岐枝守、土肥三郎左衛門、南瀬口六郎、市河五郎(十奇神社の由緒書より)といわれるが諸説ある。



毘沙門天



元々はインドのヒンドゥー教の神様。甲冑に身を包み右手に槍、左手に多宝塔を持ち威しい顔をしているため、「勝負事に強い神」として崇められている。また、「勇氣」「知恵」を授けてくれたり、「病氣や災難」から守ってくれるとされている。

東八幡神社

矢口三丁目一〜十七〜三

一三五〇年に建立。徳川入府以来、地元の人々は「湯坂八幡」と言っていたが、近くの西八幡が合祀し、明治四十四年(一九一〇)「東八幡神社」となった。祭神は応神天皇、源氏の氏神また、武士の守り神として拝祭されていた。神社は多摩川の堤防沿いであり、近くにそびえる紅白の大きな鉄塔が目印。鳥居の横に「矢口の渡し」の石碑があり、昔の多摩川の情景が忍ばれる。



弁財天



七福神の中で唯一の女性の神様で、元々はインドの水神。琵琶を持つ姿が美しく「美」や「芸術」「芸能」の神として特に女性から親しまれてきた。日本では才の字が財と同じ音を使うことから「財運」「商売繁盛」の神としても信仰されている。

延命寺

矢口二丁目二十六〜二十七

もともと蓮花寺として一三二八年(一三三〇)に開創したが、正平十三年(一三五八)新田義興の霊が雷火となったといわれる火災で焼失。その際聖徳太子が国家安穩衆人救護のために彫ったといわれる地蔵尊像だけは難を逃れた。以来、その地蔵は「火雷除子安地蔵尊(延命地蔵)」と名が付き、寺の名も「延命寺」として再建された。当寺の行事に、鐘や太鼓を打ち鳴らし、念仏を称える「双盤念仏講」がある。



寿老人



天南星または寿星の化身といわれ、白い髭が特徴的な中国の神様。巻物をつけた杖と人々の難を払う団扇を持ち、長寿を司る神の使いとされる玄鹿を連れていたといわれる。「健康」「長寿」「子孫繁栄」の神として信仰されている。